

令和 3 年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川西中学校
校長 磯田 輝昭

1 目指す学校像 「きれいな環境の中で豊かな心と豊かな学びがある学校」

2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価 または 学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	(1) 1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、校務分掌等が機能し、組織的に取り組んでいる。	B 76%	生徒指導委員会を毎週に行ってきた。校務用ネットワークに入力した事案を事前に共有し時間を有効に使い、情報交換を行った。日頃より学年を超えて共通理解を行い、規範意識の向上と生徒指導について全職員で取り組んだ。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解や情報共有のもと、指導の充実に取り組んでいることがわかりました。 ・全職員が、学校運営に協力的であると思います。
	(1) 2	授業時数や各行事の時間は適切に確保されている。	A 91%	コロナ禍による時間割の変更があった際も、偏りのないように配慮していた。教務主任が中心となり、授業時数や行事時間の確保がなされた。月行事予定作成時に時数計算が確実になされている。コロナ禍であるが、行事の時間も適切であった。	
学習指導	(2) 4	生徒の学ぶ意欲を喚起するよう、わかる授業を行うようにしている。	A 81%	主体的対話的で深い学び実現に向け、コロナ禍の中、わかる授業を目指していると思う。しかし、言葉かけの内容、生徒の発達段階に応じた配慮については課題があり、様々な生徒がいるのだということを念頭に置いて、授業を組み立てる必要がある。ICTの活用は良好であった。ICTや映像、課題の提示の方法を工夫し、生徒の興味関心を引き出す授業展開をした。授業の目標や見通し、まとめの活動を明確にしたり、意見の発表や思いを発表する活動を多く設定し、学力の向上を目指した。	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業がなされていると思います。 ・クロムブックの活用などのICT機器を活用していることは評価できる。 ・補習の実施については、把握する機会がありませんでした。

	(2) 6	学力向上のためにテスト前、及び休業日の補習を実施している。	B 75%	定期テスト前等に質問日を行い、補習は長期休業中に各学年で計画的に行われている。学力向上のために、更に充実した補充が必要である。各学年とも時間の確保が難しい中、実施している。補習等を行うだけでなく、家庭学習の習慣を定着させるため、具体的な勉強の仕方を指導することを推進して行きたい。また、毎日の自主学習ノートの提出を実施し、家庭との連携を図っている。	
生徒指導・教育相談	(3) 8	生徒の観察等を通じて不登校や問題行動、いじめ防止・早期発見に努めている。	A 85%	教育相談部会を毎週実施し。日々、学年を超えた情報共有を心がけ、生徒の些細な変化にも気を配り、不登校や問題行動、いじめ等の早期発見と適切な対応に努めた。スクールカウンセラー、相談員と報告連絡相談を徹底し学校全体で対応してきた。授業や行事を始め、三者面談や教育相談週間、生活アンケートを通して、早期発見に努めている。年度当初よりも組織的に対応ができるようになったが、解決・解消までの見届けまで確実に行うことが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒に寄り添う対応がなされている。 生徒に興味関心をひきだす授業を通じ、良い状況ではないかと思えます。
	(3) 9	地域や家庭との連携・協力を努め生徒の健全育成を推進している。	A 85%	地域や家庭との交流は充分達成できている。問題行動発生時等、家庭と連携して対応できた。コロナ禍が終息したら、地域との連携の強化を図りたい。感染症対策のために地域と広く関わりをもててはいるが、学校応援団のかわりが非常に充実している。	
健康教育	(4) 11	健康教育の充実を図るため年間計画に沿って指導している。	A 89%	日々の健康観察、定期健康診断等、健康についての意識を高め、保健日より充実していた。今年度も、コロナ禍の中、手洗い、マスクの着用、適切な距離の確保の呼びかけ、昇降口の掲示物の作製など保健委員会の活動を活発化して、健康教育の充実を推進した。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中においても、できる範囲で活動を継続させているのは生徒にとってとてもよいことである。 コロナ禍で、把握する機会がありませんでした。
	(3) 3	食に関する指導を推進し、給食指導を充実させている。	A 89%	コロナ禍の中、給食だよりも充実しており、食に関する生徒の意識を高めることができた。放送による給食に関する啓発活動を実施して給食委員会の活動を活発化した。	

学習環境	(5) 13	きれいな学校を目指し「清掃活動」「ボランティア活動」の向上に取り組んでいる。	A 86%	本校の生徒はよく掃除をしており、先生方の指導が行き届いている。学校応援団や委員会などの活動を通して、学校美化に取り組むことができている。廊下や階段等に綿ぼこりもなく、古い学校施設だが、清掃が行き届いている。環境委員会等の活動できれいな環境が創られている。さらにきれいな環境を教員・生徒の力で作っていききたい。環境委員会による学校周囲のクリーン活動を実施した。毎回100名程の参加があり、生徒自ら進んでの参加が増えた。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内を見学させていただき、環境の乱れは感じなかった。 ・コロナ禍で活動が制約され、実施しづらい中ではあるが、生徒自身が地域で貢献している姿を見られるような活動を期待しています。
	(5) 14	花の栽培や植物の栽培等を通してよりよい環境づくりを行っている。	A 86%	充分達成できている。正門・西門・昇降口前等、花が植えられ学校に彩を添えている。PTAの協力を得て、更に彩ある学校にしていきたい。	
教職員の資質向上	(6) 15	校内研修の課題が設定され、計画的に実施されている。	A 83%	計画的な研修が行われたと思う。研究主任の計画のもと、全職員で取り組んでいる。校内研修も計画的に実施できた。道徳の研究は西中職員の財産である。今後の授業に生かしてほしい。授業研究に向けて、指導案検討が充実して行っていた。研究授業の内容が高められた。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援室とさわやか相談室を生かした教育相談体制があるとこがよい。 ・コロナ禍ではあるが、主体的、対話的で深い学びを通じ、学びの姿勢を指導していただきたい。
	(6) 16	学校は職員に服務規律の確保に努めている。	A 94%	必要に応じて研修を行い、教職員事故の新聞記事の共有や校長だよりの発行を通して、服務規律への意識を高めている。服務の厳正・教員の資質の向上・教職員事故防止等、定期的に教職員への。指示伝達や指導などは充実している。	
家庭・地域との連携	(7) 17	学校便り、学年通信、学級通信を発行し理解や信頼が得られるようにしている。	A 89%	学校だよりや学年通信を毎月発行し、学校の活動や学年、学級の教育活動の情報を家庭や地域へ発信するように努めた。HPは情報の更新を随時行い、家庭・地域の理解を得られるようにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等を通して学校や学年の教育活動や方針が理解できます。 ・「積極的に学校公開、授業公開を行い理解と信頼を得られるようにしている」について仕方ないと考えます。オンラインでの公開などICTの活用を期待しています。
	(6) 5	積極的に学校公開、授業公開を行い理解と信頼を得るようにしている。	A 85%	コロナ禍の中、学校公開等をなかなか実施できない状況なので、1学期の学級懇談、2学期の授業参観・保護者会、3学期の学校公開等、コロナ禍でできることは実施し、学校理解につなげるように努めた。今年度は三者面談が実施でき、保護者と情報共有ができたことはプラスになった。体育祭、音楽会、様々な行事等をHPや学校だより等を通じ発信し、保護者にご協力頂き、地域の理解と信頼	

				を得るよう心がけた。	
--	--	--	--	------------	--

*自己評価については、12月に全教職員で行いました。

*評価については、A…8割以上（4段階評価平均3.2以上）、B…6割以上（4段階平均2.4以上）で評価をしました。それ以下はCとなります。